

「供の命」

第1組 圓龍寺 藍川 竜弥

毎日の新聞やネットニュース、SNSで、戦争や悲惨な事件を目にしない日は無いです。

自己さえ（自分たちさえ）上手くいければ良い。全てのもの（他人）まで自分の持ち物のように考えます。そのため自分が生きていくのに邪魔と思うものは排除しようと考えます。

自分の思いどおりにいかないときには

「おまえなんかいなくなればいいのに」

と家族や友人に対してでもその心がおこります。

『仏説阿弥陀経』の中に変わった鳥が出てきます。体が一つで人間の顔をした二つの顔をもつ鳥です。体を共有していることから「共命鳥」と名付けられました。この鳥については『佛本行集經』というお経に次のように書かれています。頭が二つなのでそれに「カルダ」と「ウパカルダ」と名前があります。

あるとき、ウパカルダが眠っている間に、カルダが美味しい木の実を食べてしまったため、ウパカルダが起きて美味しい木の実を食べようとしても体が一つのため、すでにお腹が満たされていて食べることができない。これに不満をもつウパカルダは、カルダに嫌がらせをするようになり、二頭の仲がどんどん悪くなっていきました。

ある時、ウパカルダは毒の実を見つけ、これを食べれば同じ体のカルダを殺すことが出来ると思い、カルダが寝ている間に毒の実を食べました。案の定、カルダは死んでしまいましたが、喜んでいたウパカルダも死んでしまいました。

この鳥を愚かだと思っている私も同じではないでしょうか？

他を傷つけたり、殺したりすることによって自分自身も破滅していくことに気づいていない。そのことを共命鳥は私たちに教えているのではないですか。

私たちのいのちは、個人の持ち物ではなく、大きないのちのなかで、お互い認め合いながら生かされているのではないですか。